新潟水俣病の発生と身体的被害

なぜ、新潟で水俣病が発生したのでしょうか？



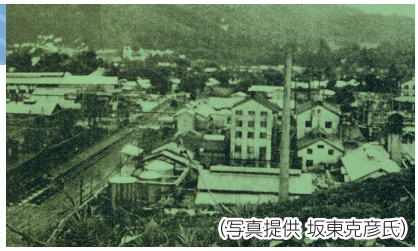
新潟水俣病の始まり

水俣病が熊本で1956年に公式発見されてから9年後、新潟県においても阿賀野川流域で水俣病の発生が確認されました。

1965年1月、新潟市の入院患者を新潟大学医学部附属病院で診察したところ、有機水銀中毒の疑いが持たれました。同年5月、新潟大学医学部から新潟県に「原因不明の有機水銀中毒患者が阿賀野川下流域に散発している」と報告がありました。そのとき患者は7人で、既に2人が死亡していました。これが、第2の水俣病となる「新潟水俣病」の始まりでした。

新潟水俣病の原因

原因を調査したところ、阿賀町(旧鹿瀬町)にあった化学工場の昭和電工(株)鹿瀬工場が、メチル水銀を含んだ排水を阿賀野川に流していたことがわかりました。


(写真提供 坂東克彦氏)

昭和電工(株)鹿瀬工場では…

酢酸や酢酸ビニル等の原材料となるアセトアルデヒドを生産していました。(1936年～1965年)
アセチレンからアセトアルデヒド生成の際、水銀化合物を使用し、メチル水銀が副生されました。

なぜ、阿賀町(旧鹿瀬町)に化学工場ができたの…

水が豊富な阿賀野川の鹿瀬発電所の電力を利用でき、近くに原料となる石灰石があり、また、安い労働力を活用できたことなどから化学工場が建てられました。

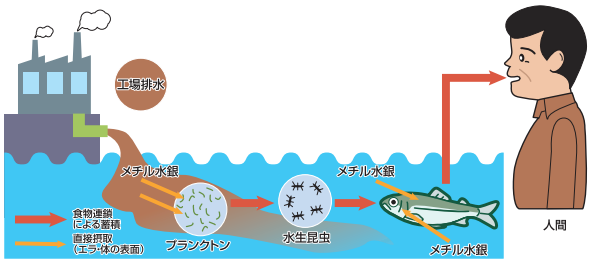
※ 現在、新潟昭和㈱(㈱レゾナック・ホールディングスの子会社)が、主にケイプラパイプを製造しており、排水のpH調整処理など、環境保全に取り組んでいます。
※ 石灰石及びコークスからカーバイドを生成し、これがアセチレンや石灰窒素の原料となります。

メチル水銀の人体への蓄積

水俣病は、工場排水に含まれるメチル水銀が原因となって起こった公害病です。

阿賀野川のプランクトンに取り込まれたメチル水銀は、川魚に数十万倍もの高濃度に濃縮蓄積され、この魚をたくさん食べた人たちが水俣病になってしまったのです。

食物連鎖によるメチル水銀の蓄積



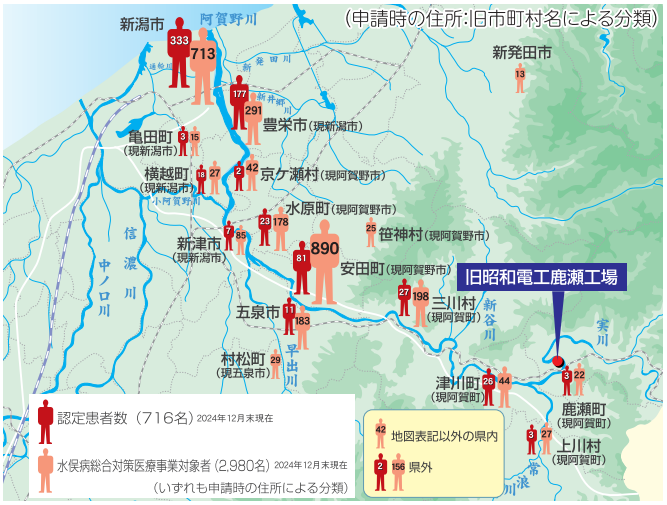
※ 排出された無機水銀が、ある種の微生物によりメチル化され、プランクトン等に取り込まれる場合もあります。

新潟水俣病の被害

水俣病のことを隠して亡くなった人や、知らずに亡くなった人もいると言われ、新潟水俣病の正確な被害者の数ははっきりわかっていません。

体内に入ったメチル水銀は、脳の神経細胞を破壊し、感覚障害(視覚、聴覚等)や手足のしびれ、頭痛、めまいなど様々な身体的な症状が現れ、今でも日常生活で苦しんでいる方がいます。

新潟水俣病被害者の発生状況(2024年12月現在)



公健法による認定患者数716人、水俣病総合対策医療事業対象者 2,980人